

4. 風水害等に備えて

まずは、
確実な情報が大事！
その次に迅速な対応！

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

大雨情報をキャッチ！ こんなときのわが家の安全対策。



大雨特別警報・警報・注意報の発表基準

大雨特別警報

台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、若しくは数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合

大雨警報

大雨によって重大な災害が起こるおそれがあると予想される場合

大雨注意報

大雨によって災害が起こるおそれがあると予想される場合

上記に併せて、洪水注意報・洪水警報が発令されます。気象庁にて、地震による地盤の緩みを考慮し、揺れの大きかった市町村については、大雨警報・注意報の発表基準（土壌雨量指数基準）を暫定的に引き下げて運用する場合があります。

浸水想定区域とは

堤防が決壊した場合に浸水が想定される区域と深さを求め、それをシミュレーションにより示したものが浸水想定区域です。

なお、シミュレーションにあたっては、対象河川以外の河川の氾濫、想定を越える降雨、内水による氾濫等を考慮していませんので、浸水想定区域図に示されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

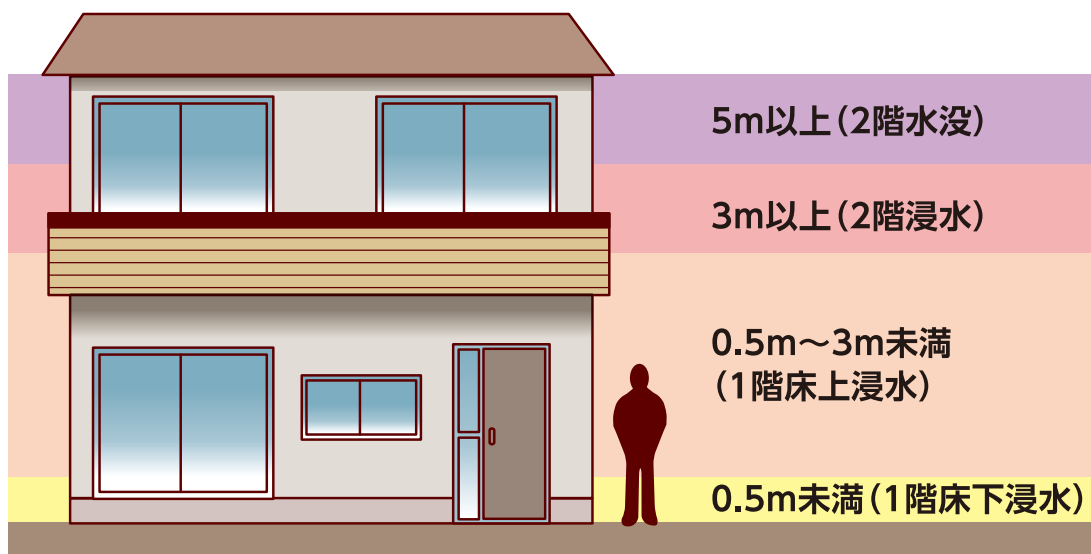
浸水想定区域図では下記の4ランクに分けて浸水深さを表示しております。

※本誌の浸水想定区域は、最大規模の降雨によるものとして国土交通省および千葉県が公表している想定区域を重ねて表示しています。

【前提となる降雨量】

- ・利根川（平成29年7月20日指定）：72時間総雨量491mm
- ・高崎川および印旛沼流域の河川（令和2年5月28日指定）：24時間総雨量668.7mm

浸水の深さについて



想定される浸水の深さ

- 5.0m**
以上の浸水想定区域
- 3.0~5.0m**
未満の浸水想定区域
- 0.5~3.0m**
未満の浸水想定区域
- 0.5m**
未満の浸水想定区域

洪水ハザードマップでは、想定される浸水の深さを色別で示しています。

水害時の心得

被害の軽減

扉の下の際間から汚水が入ってくるので、「土のう」や板などで前面を囲み、タオルで隙間をふさぎます。また、ポリタンクなど軽い物は事前に屋内に移しましょう。



危険なところには近寄らない

切れた電線のそばなど、危険な場所に近寄らないようにしましょう。また、はん濫水には汚水が混ざっているので、子供などがさわらないように気をつけましょう。



避難の呼びかけに注意を

危険が迫った時には、防災行政無線や広報車などから避難の呼びかけをすることがあります。呼びかけがあった場合には速やかに避難しましょう。



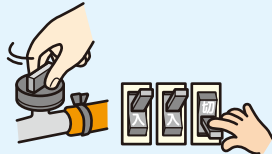
動きやすい格好で

動きやすい服装で、軍手をはめ、ヘルメットをかぶり、はき物は水に浸かっても歩きやすいものを選びましょう。レインコートは上下が分かれているタイプがよいでしょう。



避難の前に確認を

避難する時は、電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉め、床下の通気口などをふさぎ、戸締りを確認しましょう。



水面下は危険です。二人以上で避難を

浸水した場所を歩く時は、長い棒を杖がわりにして、マンホールや側溝がないか水面下の安全を確認し、2人以上での行動を心がけましょう。



避難は徒歩で

車での避難は、歩行者・緊急車両の妨げになります。また、浸水すると動かなくなるので使わないようにしましょう。



歩ける深さ男性約 70cm、女性約 50cm

洪水の場合、歩ける深さは男性で約 70cm、女性で約 50cm まで。それ以上になったら高い場所で救助を待ちましょう。



雨の強さと降り方 (1時間雨量:mm)

10~20の雨



地面一面に水たまりができ、話声が聞き取りにくくなります。長雨になりそうなら警戒が必要です。

20~30の雨



土砂降りの雨。傘をさしても濡れてしまうほどの雨です。テレビやラジオなどで今後の様子を注意し、長引きそうなら避難の心構えを。

30~50の雨



バケツをひっくり返したような激しい雨。山崩れやがけ崩れが起こりやすくなります。避難の準備を。

50~80の雨



滝のように降り、あたりが水しぶきで白っぽくなります。中小の河川は氾濫し、水害発生の可能性が高まります。

80以上の雨



息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じます。大規模な災害が発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要です。

風の強さと吹き方 (平均風速:m/秒)

10以上~15未満



風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。

15以上~20未満



風に向かって歩けない。転倒する人もいる。

20以上~25未満



しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。

25以上~



立ってられない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。

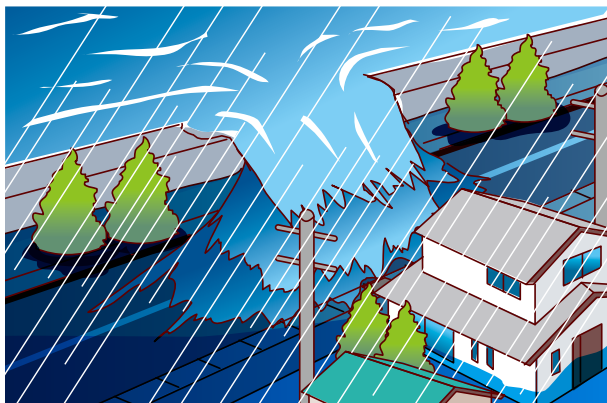
4. 風水害等に備えて

川の氾濫等

雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2種類があります。

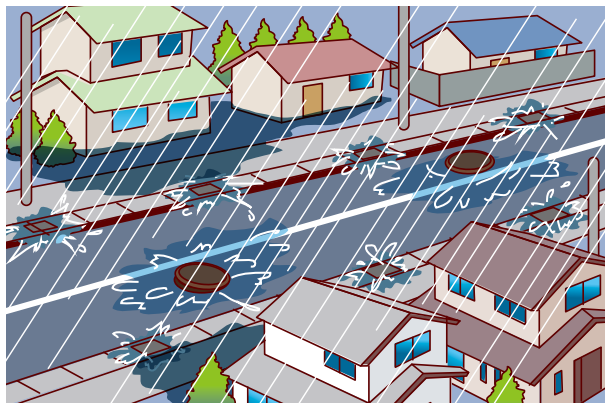
外水氾濫

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える、あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増しますので、最大の注意が必要。



内水氾濫

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれずに溜まっておきる洪水。的確なタイミングで警報や避難勧告を出すのが難しいため、注意が必要。



土砂災害

土砂災害警戒情報が発表されてなくても、ふだんと異なる状況「土砂災害の前兆」に気付いた場合には、直ちに周りの人と安全な場所へ避難するとともに、市役所などの関係機関に連絡してください。日ごろから危険箇所や避難場所・避難経路を確認しておくことも重要です。

がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



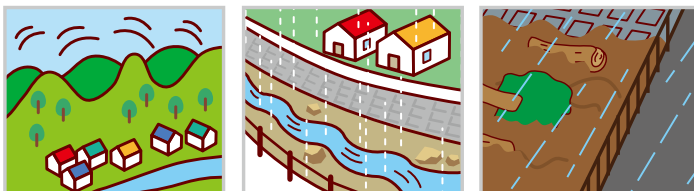
- 小石がパラパラ落ちる
- ひびわれが入る
- 木が傾いたり倒れる
- わき水が止まる(または吹き出す) など

がけ崩れ発生



土石流

山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20~40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



- 異常な山鳴り・地鳴りがする
- 川の水位が急に下がる
- 急に水が濁る
- 流木が混じる など

土石流発生



地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土塊量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。



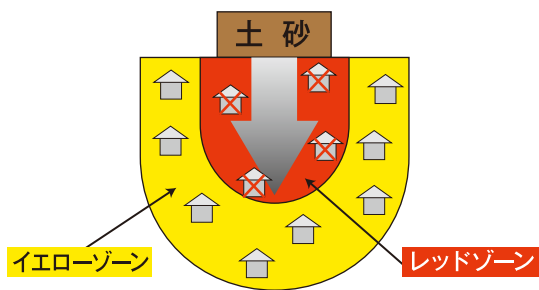
- 斜面・道路にひびわれ、段差ができる
- 井戸・池・川などの水が濁る など

※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう

警戒区域と特別警戒区域の設定

土砂災害警戒区域（通称：イエローゾーン）

土砂災害特別警戒区域（通称：レッドゾーン）を設定しています。



警戒区域イエローゾーン 土砂災害のおそれがある区域

特別警戒区域レッドゾーン 建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域

避難行動のポイント

- ① 土砂災害の前兆現象に注意し、早めに避難しましょう。
- ② 土石流や崖崩れの起こる場所から遠くに避難（水平避難）しましょう。
- ③ 夜中や大雨の中など外へ避難を行うのが危険と感じる時は、自宅2階以上の山の反対側の部屋など堅固な建物の上階へ避難（垂直避難）することも考慮しましょう。
- ④ 記録的短時間大雨情報が発表された場合は、早めに避難しましょう。



台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

台風の大きさと強さの目安

大きさ	風速15m/s以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km以上800km未満	強い	33m/s以上44m/s未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44m/s以上54m/s未満
		猛烈な	54m/s以上

4. 風水害等に備えて

集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、近年は年間を通じて発生します。発生の予測は困難な場合も多く、中小河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ラジオやテレビなどの気象情報に注意をする。
- 市や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 非常時持出品を準備しておく。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 飲料水や食料を最低でも3日分、できれば1週間分確保しておく。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動させる。
- 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備をする。

つねに気象情報には、
注意して
おきましょう！



竜巻

竜巻とはこのような現象です

- 竜巻は、発達した積乱雲に伴って発生する激しい渦巻きです。
- ろうと状や柱状の雲を伴っています。
- 台風、寒冷前線、低気圧などに伴って発生します。
- 短時間で狭い範囲に集中して甚大な被害をもたらします。
被害は、長さ数km、幅数十～数百mの狭い範囲に集中します。
- 移動スピードが非常に速い場合があります。
過去に発生した竜巻の中には、時速約90km(秒速25m)で移動したものもあります。



竜巻の発生時に、よく現れる特徴

- 真っ黒い雲が近づき、周囲が急に暗くなる。
- 雷鳴が聞こえたり、雷光が見えたりする。
- ヒヤッとした冷たい風が吹き出す。
- 大粒の雨や「ひょう」が降り出す。

速やかに情報を把握するために

- テレビやラジオの気象情報や市からの防災無線などで提供される防災情報に注意してください！

雪害

家庭の雪対策

- 物流の混乱に備え、水・食料などの備蓄(できれば7日分)。
- 停電に備えて、暖房対策(使い捨てカイロなど)、予備電池、懐中電灯、携帯ラジオなど。
- 断水に備えて、水をためておく。
- 積雪・凍結に備え、通路や階段など滑りやすい場所に凍結防止剤などを事前散布。
- スコップ、凍結防止剤などの除雪用具を準備。
- 不要不急の外出は極力控える、どうしても外出する場合は、平常時の3倍の時間がかかると思って、ゆとりをもって出掛ける。
- 早期除雪は自助と共助(隣近所の人たち)で力を合わせて行う。



凍結や滑りやすい場所～こんなところにも注意！

- 日陰の坂道、日陰の歩道
- 橋、歩道橋、階段
- マンホール
- 人通りの少ない裏通り
- 雪よせ路肩と歩道の間
- 車庫、自転車置き場 など